



# Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

## 地区目標

中核的価値観のもと、時流対応の時  
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

## クラブテーマ

ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘：東海林健登 会長  
◆司会：浦山 潔 S.A.A.

◆ロータリーソング：奉仕の理想  
◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2944回例会

令和4年5月30日(月)

## 会長あいさつ

東海林 健登 会長



今回の挨拶は、私の仕事で皆様に関係する部分の話をさせていただけます。

人が亡くなった場合相続が発生するわけですが、相続財産に土地などの不動産がある場合、令和6年4月1日から、相続人は、自分が不動産を相続したことを知ってから3年以内に相続登記をしなければならぬ義務が生じることになりました。

正当な理由なく期限内に行わないと10万円以内の過料が課される可能性がある所以要注意です。

相続人が複数いて3年以内に誰が相続するか、つまり遺言書があったり、遺産分割協議がまとまれば問題ないのですが、協議がまとまらず、3年以内に相続登記ができない場合もあると思います。そのような事態を想定して法務局に相続人を申し出る「相続人申告登記」制度も新設され、この手続きを行えば義務を果たしたとみなされます。

ではなぜ、相続登記が義務化されるかということ、全国には所有者を不明とする土地が、九州の面積を超えるほど存在し、その不明土地が発生する主な理由は、相続登記の未了にあるからです。

そのため、公共事業を進めるための土地の買収を行えない、災害時の復興用地の復興用地の買収等に非常に手間取るなど数多くの問題が生じています。

この制度が施行されると気になる点として、施行される前に開始した相続はどうなるのか、という点です。現在のところ、施行時から3年以内に行って下さいとのこと。

また、所有者の「住所」「氏名」に変更が生じた場合も同様に2年以内に変更登記を行わなければ、過料を課される制度が令和8年4月までに施行されるようです。皆様お気をつけて下さい。

最近のホットな情報としては、相続登記において、今年の4月から土地一筆の評価が100万円以下であれば登録免許税は課税されなくなりました。以前発生した相続登記にも同様に課税されません。

あともう一つ、来年から施行の予定ですが国庫帰属というものがあります。山とか持っているが、いらぬという人が結構います。その場合、国庫に帰属することができる。ただし、一定期間の管理費を払っていただいて、一定の基準に合うものは国のほうで受け取りますよということのようです。

皆さん頭の隅にでも入れておいていただければ幸いです。

## 幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 新入会員の福塚さん、今日はオンラインでいらっしゃいますね。次回、会場にお越しの時に入会グッズをお渡しいたしますので、よろしくお祈りします
- 米本満会員が健康上の理由で退会届を出されました。これを受理いたしましたのでご報告を申し上げます。米本会員は第46代の会長、また長らく球風会の会長としてご尽力をいただきました。これまで西ロータリーに賜りましたご尽力に感謝を申し上げながらご報告とさせていただきます。

## 副幹事より

来週月曜日、例年の合同委員会が開催されます。まだ出欠を出されていない方はよろしくお祈りいたします。

## ニコニコBOX

### <5月30日>

**東海林健登会長**／先週開催された早朝清掃奉仕例会、雨模様にもかかわらずたくさんの方々の会員の方々に参加していただき感謝し、ニコニコいたします。また当日、周年記念事業のモニュメントツアーまで企画運営していただいた佐藤委員長、細谷先生をはじめとする社会奉仕委員会の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

**長澤裕二さん**／山形市民登山愛好会の活動再開  
コロナの影響でこの2年間活動を休止していた登山サークル“山形市民登山愛好会”が今年4月から活動を再開しました。7月には北アルプスにも出かけます。山の会にもいよいよ日常性が帰ってきました。大喜びでニコニコします。

**渡辺隆博さん**／5月15日に球風会春のゴルフコンペが山形ゴルフで開催されました。20名の参加にて天気にも恵まれ、皆さん楽しくコースを回ることができました。皆さんお疲れさまでした。その中で2番ショートホールをニコニコホールとさせていただき、ワンオンしない場合に1,000円の罰金とさせていただきました。腕に自信のある皆さまですが、やはり社会奉仕活動を充実させるためにわざと外された方が14名もおられましたのでニコニコさせていただきます。優勝は浦口太門さん、準優勝は高橋順弘さんでした。ありがとうございました。

**高橋順弘さん**／球風会に参加して  
久しぶりの青空の下でのゴルフ、大変楽しくすることができました。リラックスしてできた結果、準優勝。ありがとうございました。7ロータリーの大会もがんばります。

**浦口太門さん**／球風会春のコンペ優勝  
何年ぶりでしょう。なんと、優勝しました。同伴者に恵まれて久しぶりのいい気分になりました。このまぐれが続きますようにニコニコします。



## 山形の留学生と日本語教育の現状

内海 由美子 氏

山形大学学士課程基盤教育機構  
教授

ただいまご紹介にあずかりました山形大学学士課程基盤教育機構の内海と申します。本日はお招きいただきましてありがとうございます。こんなに正面から皆さまの視線を一手に集めて話すのはそれだけでも緊張でいっぱいなんです。なるべく皆さまのご興味に沿うようなお話になればと思い、今日はやってきました。よろしくお願いたします。

では、今日頂戴したテーマが「山形の留学生と日本語教育の現状」ということで、全国的なデータを見ていただこうと思います。

令和3年5月1日現在のデータなのですが、日本国内には24万2,444人の留学生がおります。在留外国人が280万人ちょっとですので、その約8%が留学生ということになります。そのうち21,945人は海外でオンライン授業を受講していました。それも含めての24万人という数になります。

折れ線グラフを見ていただけると一目瞭然ですが、コロナ禍でガクンと減っているのがお分かりかと思いますが、下の緑の線が日本語学校の留学生、赤い線が高等教育機関・大学等の留学生、青い線が合計です。途中から緑の線が現れているのにお気づきかと思いますが、以前は日本語学校の学生は就学生という在留資格だったのですが、政府が「留学生20万人計画」を立ち上げた時に就学生も留学生に入れてしまえということで、そこから一本化しました。日本語学校の学生も大学・大学院の留学生も含めて「留学生」ということになっています。

国籍別で見ますと、約半分が中国、増加著しいのがベトナム、ネパール、このあたりは日本語学校に多いようで、

それから韓国、インドネシアというような順番になっています。

都道府県別のデータが令和2年のものしかないのですが、最初にお見せした全国よりも半年古いものですが、山形県の留学生は273人、下から2番目ですね。全国46位となっています。下から言いますと、秋田県、山形県、青森県、鳥取県、島根県、岩手県ということで、数年前は下から5番目ぐらいだったんですけども、ズルズルと落ちて、今、下から2番目になっています。それで273人のうち、山形大学が267人ですね。データの日付がズレていますが、ほとんどが山形大学の留学生です、山形大学ももっとがんばれと言えるかと思います。令和2年12月現在で全体の留学生数が28万人、山形県の留学生はその1000分の1ということがわかります。

山形大学の留学生、今年の4月の最新で258人です。ピークは2019年の271人でした。そのまま順調に増えるかと思われたのですが、コロナで258人まで落ち込んでいますが、去年に比べれば回復してきていて、日本政府が5月末までには海外にいる留学生をすべて日本国内に入れると明言していたのですが、ほぼその通りになっています。現在日本に入ってこれないのは、中国はご存じの通り上海、北京でロックダウンが起きているので、ビザを取りに行きたくても領事館に行けないという状況が起きているので、これは中国国内の事情かなと思います。学部生が149人、大学院生が109人です。学部生で一番多いのは工学部、大学院で一番多いのは農学部の農学研究科、それから連合農学研究科、これは弘前大学・岩手大学との連合による大学院の課程ですが、ここの留学生が多くなっています。理系の留学生が多いということがお分かりいただけるかと思いますが。

国籍別で見ますと、半数を超える数を中国の留学生が占めています。あまり1つの国が多過ぎるというのはキャンパスの国際化という点から言ってどうかなということで、私たちがいろんな国の留学生を増やしたいとは思っていますが、なかなかやはり日本語ができないと学部の勉強、文系の大学院の研究ができないので、どうしても中国とか台湾のような漢字圏の留学生が多くなります。その次がインドネシア、マレーシア、韓国と続いています。アジアが87%を占めています。ヨーロッパも15人、ほとんどが交換留学生で、小白川のキャンパスにおります。イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、ラトビアといったところが来ています。それからインドネシアとアフリカ、13名のアフリカ人は農学部です。

特徴的なところではマレーシアが16人、これはほぼマレーシア政府派遣、マハティールさんは今90何歳だそうで、先日テレビのインタビューに答えているのを見ましたが、マハティールさんのルックイーストポリシーで、日本を中心とした国に留学生を送り出して、日本でしっかり勉強してその知識を国に持ち帰っ



て国の発展に役立てようという政策なのですが、それで必ず毎年工学部に来ています。たまに人文社会科学部にも来ています。

山形大学の留学生が卒業後どんな進路状況かということなのですが、これは2020年のデータで、日本国内に留まる者が合計で24人、出身国・地域に帰る者が24人ということで、同数ですね。半分が日本に残り、半分が国に帰る。それで日本に残った者のうち16人、約67%が就職です。これは私の感触なのですが、就職希望の学生が徐々に増えているような気がします。

直近3年間の就職実績は、日本学生支援機構のサイトで公開されているもので、こんなところにお世話になっております。山形県は残念ながら留学生数が下から2番目ということで、なんとか留学生を増やしたいという思いは山形県も山形大学も同じなんですけれども、山形県の姿勢としては、「グローバル化の進展の中で山形県が発展していくためには高度外国人材とともに新たな価値を創造していくことが必要である。その高度外国人材として期待される外国人留学生を積極的に受け入れ、定着を図ることが重要」です。

山形県はコロナ禍でも外国人留学生の受け入れ拡大に350万円投入ということで、すでに山形留学ポータルサイトが立ち上がっています。山形の魅力を世界に広げ、山形を留学先として選んでもらおうというのが趣旨のポータルサイトのようです。

山形大学がすべきこと、これは私の個人的な意見なんですけれども、まず渡日前の入学許可の拡大とともに厳正な入試、日本に受験をしに来なくても、渡日前、国にいたまま入学許可を出そうという動きが少しずつ広がっています。これをなるべく多くの国に拡大していきたいと思っています。それと同時に必要になってくるのが厳正な入試ということで、どうしても漢字圏が有利になってしまいますので、なんとか厳正な入試を行なって、優秀な学生をいろんな国から呼びたいという思いからこのようなことが必要ではないかと考えています。

それから学習環境の整備ということで、1年生には一人ひとりに日本人の学生または先輩留学生をチューターとして付けていまして、生活相談とか学習の相談とかに乗ってもらえるようにしています。あと寮もピーク時は本当にあふれる学生がいて、交換留学生も悪いけどアパートに行ってしまうということもありましたので、寮は今後留学生がまた元に戻れば必要になってくるのではないかと思います。

それから日本語教育、留学生教育の拡充ということで、なんとか1年なり1年半なりの日本語教育の予備教育をやって、その中から優秀な学生を大学に入学させるということがなんとかできないものかと、留学生教育を担当する教員が数年前からあちこち画策しているのですが、まだ実現に至らずという感じです。

それから大学生活だけでなく将来も見据えた教育へということで、私たち山形大学に着任した20年前は、とにかく大学の勉強や研究に必要な日本語を教えてきたんですね。ところが日本で就職したいと希望する留学生が多くなりまして、勉強や研究に必要な日本語だけ教えていても、就活で苦労する。就職支援のための日本語というのもやら

なきゃいけないという状況になってきています。工学部なんかは先生ががんばってやっているのですが、小白川は文系の学生が多くて、日本語は結構できる学生がいるものですから、ちょっとその状況に私たち甘えているところがあって、これは良くないと反省しているところです。

それから就職支援ですね。留学生というのはある程度日本語ができますし、勉強や研究の経験があるので、就職した先でも高度人材として活躍できる可能性があるんじゃないかということで、就職支援にも最近力を入れています。工学部なんかはバスを出して県内の企業を回るツアー、インターンシップを行なっています。小白川キャンパスにも就職支援、本当にきめ細やかに担当している教員が2人います。その教員の力を借りながらなんとか山形県内の企業に就職させて、山形県のために働いてもらいたいと思っています。これが山形大学がすべきことだというふうに私は考えております。

山形県の留学生を増やすためには、留学生支援団体などのお力をお借りし、奨学金枠、対象枠、学生対象の寮やアパートのご尽力をいただければと考えております。そういう意味ではロータリークラブ様には米山奨学金という本当に学生が一切アルバイトしなくても勉強できるような額の奨学金を頂戴していて、本当に心から感謝いたします。

2022年5月現在、11名の学生が奨学金を頂戴しております。学部が6名、修士課程が3名、博士が2名。国籍は中国が6名、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、ネパールが各1名となっております。どうしても中国に偏ってしまう現状をなんとかしたいと、去年は留学生担当教員と留学支援の職員とが連携して、留学生の成績を片っ端からひっくり返して優秀な学生を漢字圏に限らず探し出しまして、韓国、ベトナム、ネパールの学生を面接に送り込み、見事採用していただいたという経緯があります。それで事務職員、留学生担当教員の気持ちは、成績に限らず幅広い視点で採用いただいている数少ない奨学金ということで、きちんと面接の対応も含めて選考していただいている、それから本当に毎年多くの学生を採用していただいて大変感謝しているということを伝えに来ました。それで、奨学金受給後も例会に招いていただいているんですかね。きちんと交流を図っていただくという点におきましても、留学生の人的な成長に大変役に立っているのではないかと感謝しております。

山形県の留学生を増やすために、日本語教育の体制整備が欠かせないと思うのですが、残念ながら山形県の日本語教育体制は非常に脆弱です。山形県内には日本語学校がないという状況になっています。それから日本語教育の専門家、日本語が教えられ、日本語教育の研究を行い、日本語教師を育てるという意味での専門家は県内に5人です。山形市に4人、米沢市に1人、という状況です。日本語教師も非常に少ないというのが残念ながら山形県の状況です。

日本語学習支援は1980年代後半からボランティアに依存しています。1986年にフィリピンからいわゆる外国人花嫁が山形県にやってきて、全国で初めて行政が国際お見合いを斡旋してフィリピンから女性を受け入れたということで、非常にマスコミに取り上げられ、叩かれもしましたが視察も相次いだという状況があったんです。行政がそのあと外国人支援団体が中心になって日本語教室を立ち上げ

ていますが、ボランティア依存です。この背景には日本人なら日本語が教えられる、長く住めば日本語ができるようになる、これは残念ながら大きな誤解なんです。山形県はボランティアに依存して外国人に日本語を教えてきたという状況があります。

これはもう全国的な傾向なのですが、ボランティアが高齢化しているんですね。若い人は自分の生活で手一杯という状況で、全国的にもボランティア依存の日本語教育は限界を迎えていると言ってもいいと思います。

一方で、ウィズコロナで技能実習生の急増が見込まれますので、なんとか日本語教育体制を構築しなければいけないと思っています。これは日本政府も同じ考えで、1つ目は2019年に通称日本語教育推進法という法律ができて、それから関係閣僚会議では外国人材の受入れ・共生のための総合的な対応策、令和3年度に改訂版が出ています。ただ、残念ながらその都道府県にはかなりの温度差がありまして、本県はちょっと腰が重いかなという状況です。

「中東北連携による地域日本語教育専門人材養成事業」を始めました。去年の5月ぐらいに構想を開始しまして、今年の2月末に連携協定を結ぶところまでできました。

山形県は山形大学学士課程基盤教育機構、山形市国際交流協会、特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカが加わってくださっています。岩手県、岩手大学国際教育センター、岩手県国際交流協会。秋田県は国際教養大学、大学院の研究科。秋田県国際交流協会。この7者が連携してなんとか日本語教育の専門人材を育てようではないかと、事業連携協定を締結しました。

それで5月7日から養成講座を3県合同で、オンライン講座実習をやっているところです。山形県も秋田県、岩手県も外国人が非常に少なく散在している外国人散在地域なんですね。地域の抱える事情が非常に似ていて、日本語教育の専門家が本当に少ないけれども技能実習生に依存しなければ県の産業が維持できない状況になっていて、技能実習生が外国人労働者の過半数を占めるという状況があります。そんな中で3大学は日本語教師養成課程を持っているんですね。秋田大学はなく、日本語教師養成課程を持っている大学が連携してやっています。

このオンラインの講座が終わったところで修了認定を行い、修了してもよいと認めた受講者の方を対面実習、これは3県に分かれて、山形県は山形市で8月下旬から教育実習を行う予定です。山形県の場合はヤマガタヤポニカさん



にお願いして教育実習をしていただきます。きちんと修了認定をして、「もうこの人は専門人材としてどこに出しても恥ずかしくない日本語教師だ」と認めまして、県や市の国際交流協会の人材バンクに登録を依頼します。地域日本語教育専門人材として登録をしていただきます。そして企業から「外国人の社員がいるんだけど、日本語を教えてくれる人はいないだろうか？」という照会があった時に優先的に名前を出すという仕組みを考えています。

一人ひとりちゃんと教えられる人を育てたいということで、各県10人の定員を設けたんですね。ふたを開けたら70人以上の応募がありまして、まさか選抜することになるとは思わなかったです。山形県にも日本語教師としての勉強をやった方がいる、存在する、私たちとつながっていただけだということが分かり、山形県から11人の方を選抜し、講座に参加してもらっています。なるべくこの11人の方々1人も取りこぼさず専門人材として山形県のために役に立ってもらいたいと考えています。

この文系の連携ってすごく珍しいみたいなんですね。理系は大学間で連携して研究を行うということがあるようなのですが、文系の大学の連携は珍しいということで、この協定締結式を取材した共同通信配信の記事に日本経済新聞の記者さんが目を留めてくださりまして、「文系の連携、珍しいですね」ということで取材をしていただきました。記事は、先々週の火曜日に日本経済新聞に掲載しておりますので、よろしければお読みいただければと思います。

私の願いといたしましては、1人でも多くの専門人材を送り出したい。そして専門人材の方を外国人社員を雇用している企業の皆さまには採用していただき、質の保証された日本語教育を外国人社員のためにやっていただきたい。これが私の切なる願いです。ありがとうございました。

本日出席 (5 / 30)	会員総数	出席会員数
	98名	54名 (Zoom参加者含む)